

# 奄美・沖縄航路の拠点機能の強化 ～鹿児島港新港区～

鹿児島港新港区の整備

奄美・沖縄航路の拠点機能の強化を目的に、平成23年度から進めてきた鹿児島港新港区の整備が、令和2年6月末に完了しました。

これにより、旅客の安全性・利便性や荷役作業の効率性の向上が図られ、世界自然遺産に登録された奄美大島・徳之島を含む奄美群島の観光、産業の振興に大きく寄与することが期待されます。



整備前の課題：昭和40年代に整備されてから40年以上が経過し、建物や岸壁の老朽化が進むとともに荷役作業のスペースが不足

奄美・沖縄航路

鹿児島港新港区  
 取扱貨物量  
 : 約200万トン/年  
 フェリー利用人数  
 : 約13万人/年

鹿児島港は、海上の  
 物流拠点として、また、  
 離島航路等の発着場と  
 して、県内外の人流・  
 物流の中心的役割を担  
 っています。

- ・ 耐震強化岸壁 (H26供用)
- ・ ボーディングブリッジ (H26供用)
- ・ フェリーターミナル (H26供用)
- ・ フェリー岸壁 (H28供用)
- ・ ふ頭用地 (R2 供用)

- ・ 旅客の安全性・利便性の向上
- ・ 荷役作業の効率性の向上



## 旅客の安全性・利便性の向上



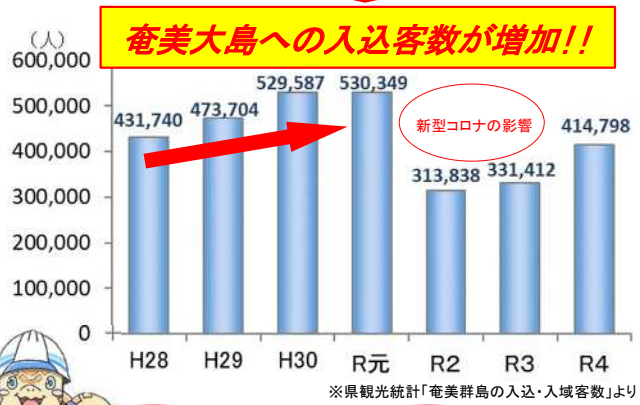
ボーディングブリッジを整備



## 荷役作業の効率性の向上



ふ頭用地の埋立



**奄美群島の観光、産業の振興**

